

ヨーロッパ旅路

丹羽恒夫

23. 西ドイツのモザイクパーケットフローリング
 前号にモザイクパーケットフローリング工場について述べたのでホルツメッセーその他で得られた資料にもとづいて私のきいた範囲で西ドイツのフローリングの一部について述べよう。

1959年の西ドイツの床板の使用量は約 7500万m²であり、この中木製床板は約 3400万 m² と約45%を占め、地球の周囲は約 4万 kmであるから、この木製床板を 1m巾で地球の周囲をはればあと6000 kmで1周することになる。この量をリノリウム、PVC、ゴム系統等の他材料の床板と共に棒グラフに示したのが右の表である。

このうちモザイクパーケットフローリングを含めた寄木床板（以下パーケットと云う）の生産量は下表の如く 1960年には約 589m²生産され、4半期毎にみても平均的に生産されるようである。

しかしこれでも足りなくて1960年には木製パーケットを約 125万 m² 輸入しているが、その大部分はフランスより輸入している。

輸入先の国別を見ると次頁表の通りである。輸出量は約 70万 m² にとるに足りない。

普通のストリップフローリングの価格はフランス製品で厚み 16mm、23mmで Eicheで 10~19DM/m²、Kastanieで 8~12 DM/m²、Seekieferで 5~7.5 DM/m²である。モザイクパーケットで Eiche

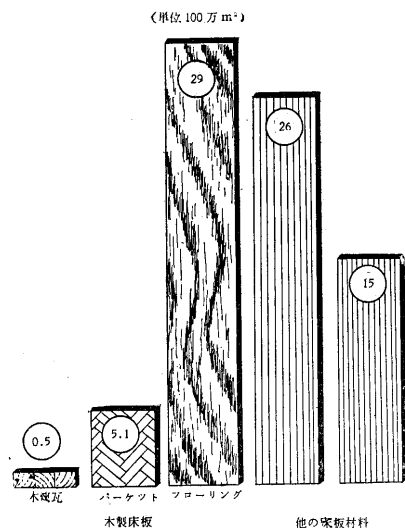
6.50 ~ 12.50 DM/m²、Kastanieで 6.20 ~ 8.00 DM/m² (厚み 8mm)。

またドイツ製品でモザイクパーケットフローリングの施工及び仕上げ塗装まで含めると (厚み 10mm)

なら 1等 18DM/m²

2等 16DM/m²

モザイクパーケットフローリングのみならず、フローリング施工の時は、アスファルト含浸紙を張って湿



1959年の床材料使用面積

西ドイツ寄木床板生産量

地区名	第 1.4 半期			第 2.4 半期			第 3.4 半期			第 4.4 半期			1960 年総計		
	生産量	生産金額	工場数	生産量	生産金額	工場数	生産量	生産金額	工場数	生産量	生産金額	工場数	生産量	生産金額	工場数
Schlewig-Holstein	m ²	千DM		m ²	千DM		m ²	千DM		m ²	千DM		m ²	千DM	
Hamburg	161,827	2,173	8	172,297	2,222	8	185,912	2,480	8	184,738	2,399	9	704,774	9,274	9
Niedersachsen															
Bremen															
Nordrhein-Westfalen	83,354	954	14	72,167	887	12	79,234	1,015	12	87,843	1,049	14	322,598	3,905	14
Hessen	32,903	363	6	34,951	414	5	53,413	579	5	132,494	1,382	7	253,761	2,738	7
Rheinland-pfalz	91,390	875	6	89,140	869	6	89,790	884	6	73,309	747	6	343,629	3,375	6
Baden-württemberg	522,370	6,495	37	606,508	7,785	39	706,236	9,239	42	641,523	8,261	43	2,476,687	31,780	43
Bayern															
Saarland	405,319	4,401	35	430,308	4,726	34	489,245	5,683	32	462,652	5,237	36	1,787,524	20,047	36
西ドイツ計	1,297,163	15,261	106	1,405,371	16,903	104	1,603,680	19,880	105	1,582,559	19,075	115	5,888,973	71,119	115

西ドイツ寄木床板輸入量(1960年)

国名	床板面積 m ²	金額 ×1000DM
ベルギー	247	3
ブラジル	167	1
デンマーク	73928	1029
フランス	1150170	7223
ガーナ	100	1
日本	522	4
ユーゴスラビア	8873	73
カナダ	386	5
ルクセンブルグ	79	1
オランダ	199	5
オーストリア	3942	39
スエーデン	9116	149
スイス	1559	13
シンガポール	647	7
アメリカ	1585	18
合計	1251520	8571

気伝達を防いでいる。又コンクリート工事にさいしてもモルタル下とか或は床下に必ず防湿層を設けているので、下からの吸湿による木材膨脹による狂いは少ないようである。

又面白いことは西ドイツでは公共の建物は良い1等の無節のものを使用する。これは公共のものは長持をさせねばならないからとのことである。日本では公共のものは安くするため、等級の低いものを使用すると云うことと対照的である。

含水率は8~10%を基準としているが、その地区の適正含水率をきめるのにどうしているかときいた所、その地区に施工してある建築材料の月々の平均含水率を測定し、その平均値より1%低い含水率を以て適正含水率としている。

西ドイツで使用されているモザイクパーケットフローリングはコンクリート若しくは板に直接張りつける形のものが多く、真に板を積層して直接根太に釘着するものの生産量はすくなく、スエーデン、デンマークより輸入が多いようである。

24. ストットガルト (Stuttgart) へ

10月31日、予定通りフランクフルトを出てから一路ストットガルトへ急ぐ、ここは前述したようにオートバンに珍らしく直線部分が多い。ドイツの道路は直線部分はすくなく、適当な所に屈曲が多い、直線部分が長いと、どうしても精神的に散漫となり事故の原因となり易いそうである。又舗装はコンクリート及びアスファルトであるが、所々敷石舗装(以前札幌の五番館横にあったような)の道が短区間はさ

まって居り、そのために自動車が細かくゆれる。何故だろうときいたが、要領を得ない(道路の専門家にきけばわかるのであろうが)一説には冬、スリップをしないように、一説は眠気さましたと云う。

アメリカではハイウェイは直線が多いので、アメリカ人はドイツのオートバンで自動車の速度は可成り出せるにかかわらず、慣れるまではスピードを出さないそうである。

今吾々が走っているオートバンはリュウベックからハンブルグを経てフランクフルト、カールスルーエから有名なシュワルツワルト(黒森)とライン河の間を通過してスイスのバーゼルに抜けて居り、この内ケールとフライベルグ間はまだ出来ていないだけで西ドイツを北より南に抜けているので、コペンハーゲンよりフェーリポートで渡れば、北欧よりスイスまで立体交差で自動車旅行が出来ることになる。

フランクフルトより、カールスルーエまで116km、ここより東方へ枝わかれしてミュンヘンに向うオートバン上を54km走ると、ストットガルトに入る地点に来る。ストットガルトはハイルボレンより来るオートバンが入り、又町の遠くを廻ってバイパスするので入り方が種々あり、入る方向を間違えると、都心にくるのにえらい遠廻りをするようになる。吾々はウイルドパークの方から入ったが、森の中をぐるっと廻り20分以上走って漸く町の中に入った。

恰度庭園の展覧会が始まったそうで、予め頼んであったホテルは満員で、駅前立派なホテルリーカードに紹介され、部屋がとってあったが、上等な部屋で応接セット等置いてあり、せいたくなもので吾々の予算より高かったが、止むを得ない。その代り、今までのデュッセルドルフのホテルより立派で居心地はよいが、懐具合が心配になりそうである。

シュットガルトはバーデンピュルテンブルグ(Baden Wurttemberg)州の首都で人口約64万の町である。前述したように町の西と南は森林にかこまれ東側はネッカ河が流れている。

ネッカ河(Neckar)は有名なドナウ河(Donau)とともにストットガルトの西南方シュワルツワルト(Schwarz wald)に源を發しストットガルトよりハイルブロン、ハイデルベルグを通過してマンハイムでライン(Rhein)河と合流する。

町の東南には小高い丘があり、森に囲まれた中に高さ211mのテレビ塔がたっている。更に南方に下りミュンヘンに向うオートバンの下をくぐってストットガルト空港に出る。この飛行場は南方より来る飛行機の入口となる。

中央駅は町の中心にあり他の都会の駅と同様、行き



シーラー広場（中央はシーラー記念像）

止りになって居りすべての列車は入って来て、又戻ってゆき、途中でわかれるようになって居る。駅の東方には大きな細長い公園があり、その南端には古い城にかこまれたシーラー広場があり、シーラーの記念像がある。

この地区の中心だけに人手が少いと見えてイタリ人、その他の国の人の出稼ぎが多い様で、駅にゆくといろいろな人がたむろして居り、何となく雑然として、変な者もウロウロして居り気味が悪い点もある。又駅にある両替銀行にはその日その日の両替率が掲示され、自国へ送金する人達が集っている。駅の中の売店では例のソーセイジ等も売って居り立喰しているが、美しいお嬢さんがこれを食べている図もなかなか面白い。

ヨーロッパに来るとキリスト関係の休日が多く、しかも日がきまって居らず、何の日から何日目が休日だとかややこしく、又南ドイツはカトリックが多いので休日が増えたりする。恰度11月1日は木曜であるがカトリックの休日だそうで、会社工場も店も休みでいっているのは駅の売店だけである。

- 林指合板研究室 -